

この歴史部通信では、歴史部の活動についてレポートします。今回は、7月14日に行ったフィールドワークの報告です。

刀剣博物館 (両国)



一カ所目に刀剣博物館を訪れました。刀剣博物館は、日本刀を保存・公開し、日本刀文化を普及させるため、日本美術刀剣保存協会の付属施設として昭和43年に開館しました。国宝や重要文化財など多くの指定認定品が展示されているだけでなく、実際に日本刀を持って重さを体感できるコーナーもありました。日本刀は古くから大切に保存

され、歴史・文化的に多くの役割を果たしてきました。そのことから制作当時の姿を現代に伝えている日本刀を鑑賞することは、日本文化を感じ、理解を深めることだと私は思います。刀剣博物館は定期的に展示物の入れ替えがあり、何度訪れても飽きることなく鑑賞ができるようになっていきます。(A212 加瀬 紫音)

旧古河庭園 (上中里、駒込)

旧古河庭園は台地の斜面と低地を生かし、小高い丘に洋館を、斜面に洋風庭園、そして低地に日本庭園を配置しているのが特徴の一つです。洋館および洋風庭園の設計者は

ジョサイア・コンドルという英国人であり、彼は鹿鳴館などの名高い建築を数多く設計しました。天候には恵まれず、また季節も相まって名物である薔薇園の多彩な薔薇は見る事ができませんでした。それでも和洋の調和や、伝統的な技法を垣間見ることができました。特に私が気になった技法が「崩石積」というものです。これは石を垂直



に積む方法として、京都で発達したものであり、崩れそうで崩れないうのが美しいとされています。旧古河庭園は「崩石積」の代表格として知られており、庭園や技法に詳しくなくてもその荘厳さを感じられました。

(S212 坂井 絢香)

靖國神社 (九段下)

三カ所目に、靖國神社の遊就館を訪れました。館内には、明治維新から太平洋戦争までの様々な資料が多く展示されており、近代日本の歩みを知ることが出来ます。復元された零戦や縮尺模型の空母なども展示されていました。

世界情勢、当時の日本の状況、その時代の人々の生活や兵器などを見ることができ、自分の中の日本史を考える良い機会になりました。昼食は、靖國八千代食堂で、特攻の母と慕われた鳥濱トメ



さんの玉子丼を頂きました。薄くスライスして柔らかく煮た玉ねぎと、半熟卵の優しい味でした。物資の限られた中で、精一杯の工夫が感じられました。(A212 高塚 律)



戸栗美術館 (渋谷)

戸栗美術館は東京都渋谷区松濤にある陶磁器専門の美術館です。中国・朝鮮などの東洋陶磁器や伊万里・鍋島などの肥前磁器を主に保存、展示しています。

その中でも私のおすすめは第二展示室に展示してある「青磁色絵山水栗文 輪花鉢」という作品です。江戸時代に制作された伊万里で、内面側面に、青磁釉という青色に発色する薬を塗った輪花型の鉢です。内側の部分は山と水を取り合わせた自然風景が描かれており、文様の輪郭線や口縁に金縁を施しています。金縁により存在感がある作品でとても綺麗でした。(T212 宇賀神 綾花)



旧古河邸にて